

○ 本校の概要

○学校規模……………児童数:849名・学級数:26学級・教職員数:校長1、副校長1、教員35、事務1、栄養士1、カウンセラー2、講師6
○本校の教育目標……よく考える子ども 思いやる子ども がんばる子ども じょうぶな子ども
○本年度の主な取組……校内研究(教科・社会・生活科)、たわわり班活動、各教科領域等における体験的な活動(モーモースクール・低学年の音楽・演劇鑑賞教室)、校内研究と授業観察を関連づけた授業改善
○特色ある教育活動……国際交流(東京工業大学留学生・東京朝鮮第六初級学校) 池雪いきいき広域連携と連携した教育活動(新年の登下校や給食の支援、園・工・家庭科・外国語活動の支援、ヒトトープや水田)

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価 人数 コメント
未来社会を創造的に生きる子供の育	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にふさわしく対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図ることに努める。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	○ALTによる英語力向上を促進し、コミュニケーション能力を高める機会を設けた。各回とも、40人近の児童が参加し、主体的に取り組む児童が増えた。	A 4 B 2 C D
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのしい」を基にした体験活動や観察授業等を実施する。	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○カリキュラムマネジメントを実施し、教科横断的な関連性を明らかにするとともに、指導の重点化を図ることができた。	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4.設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3.80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2.60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1.60%未満であった。	3	4.設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3.80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2.60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1.60%未満であった。	4.設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3.80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2.60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1.60%未満であった。	○1年生の5月からICTを活用した授業を開始したことに伴い、低学年からタブレットを活用した授業に慣れる児童が増えた。	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	3	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	○人権教育プログラムを活用し、引き続き教員の人権意識を高めていくために定期的に校内における研修会を開催する。	
学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学力意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	3	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	○学習カルテによる面談を行い、児童・生徒一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、個に応じた指導を実施することができた。	A 6 B C D
		算数・数学学習態度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4.学期に2～3回知らせた。 3.80%以上知らせた。 2.60%以上知らせた。 1.60%未満であった。	3	4.学期に2～3回知らせた。 3.80%以上知らせた。 2.60%以上知らせた。 1.60%未満であった。	4.学期に2～3回知らせた。 3.80%以上知らせた。 2.60%以上知らせた。 1.60%未満であった。	○第2学年より学習態度に合わせた算数指導を実施することにより、個に応じた指導を実施することができた。	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4.対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3.80%以上の教員が働きかけた。 2.60%以上の教員が働きかけた。 1.60%未満であった。	3	4.対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3.80%以上の教員が働きかけた。 2.60%以上の教員が働きかけた。 1.60%未満であった。	4.対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3.80%以上の教員が働きかけた。 2.60%以上の教員が働きかけた。 1.60%未満であった。	○児童の実態に応じて、補習や取り出しによる個別指導を行うことにより、個に応じた指導を展開していた。	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	○授業改善推進プランをもとに、自己申告における授業観察では、課題解決に向けた手立てを話し合い指導案を作成し取り組んでいる。	
豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感、自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心、未来への希望に満ちた豊かな心を育くみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○雪割中学校学区において、雪割小学校と連携して行事等に取り組む機会を設けた。生活指導主任が中心となり、情報共有を図ることができた。	A 3 B 3 C D
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、都及び区の資料を活用した授業を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4.学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○1学期に道徳授業地区公開講座を開催した。保護者の授業への参観はあったが、参観人数が少なく、参観できなかった。事前に地域や保護者へ周知を図る。	
		学生生活調査(メタヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみの児童・生徒に対して組織的に対応する。	4.「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4.「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	○学校にとどまらず学年で情報を共有し、生活指導と連携して取り組む。個別の対応が必要な場合は、ケース会議を行っている。	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4.「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4.「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	○学校いじめ防止基本方針について、生活指導と連携して取り組む。個別の対応が必要な場合は、ケース会議を行っている。	
体力増進の向上と健康	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上と、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒と保護者に対し、生活習慣についての意識啓発を行う。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○「早寝・早起き・朝ごはん」の取組は、ほとんどの児童・生徒の協力を得ることができた。	A 3 B 3 C D
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○栄養士を中心に食の給食や世界の給食など、献立を工夫し、栄養バランスや食事のマナーなど、適切な情報を提供し、食育の充実を図っている。	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○運動に取り組む姿勢や体力の二極化が見られる。日頃から運動に親しむために、体育委員の発案や自発的な活動について、教員の指導力向上に向けた研修を行っている。	
		一校一取り組み(長縄跳び、持久走、短縄跳び)を通して、体力向上に取り組む、休み時間の外遊びを励行する働きかけを行っている。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○体育的行事委員会を中心に、体育委員会と連携して取り組んでいる。	
魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	○授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	A 5 B 1 C D
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4.学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3	4.学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4.学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	○計画的にOJT研修を実施することができた。お互いに質問し合い、内容を深めることができた。	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	○各種研修会に毎回教員を派遣している。研修した内容を伝言として情報共有を図っている。	
		校内委員会等を確立し実施し、学校における授業改善を推進する。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	○校内委員会等の開催方法が共通化されていないため、生活指導主任に呼び、教職員全体の周知を図った。定期的に児童一人一人の支援を行う体制を整えている。	
学校・地域・家庭が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開し更新することにより、積極的な情報発信を図る。	4.1月1回以上更新した。 3.80%以上の教員が更新した。 2.60%以上の教員が更新した。 1.60%未満であった。	3	4.1月1回以上更新した。 3.80%以上の教員が更新した。 2.60%以上の教員が更新した。 1.60%未満であった。	4.1月1回以上更新した。 3.80%以上の教員が更新した。 2.60%以上の教員が更新した。 1.60%未満であった。	○学校HPの更新は毎月必ず更新することになっている。	A 4 B 2 C D
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の安全や生活の向上に関する情報を提供し、積極的な連携を図る。	4.毎月情報を提供した。 3.80%以上の教員が提供した。 2.60%以上の教員が提供した。 1.60%未満であった。	3	4.毎月情報を提供した。 3.80%以上の教員が提供した。 2.60%以上の教員が提供した。 1.60%未満であった。	4.毎月情報を提供した。 3.80%以上の教員が提供した。 2.60%以上の教員が提供した。 1.60%未満であった。	○地域教育連絡協議会を年に3回開催し、各学年の児童の様子や生活の様子、地域や学校生活の向上に関する情報を共有することができた。	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	○いよいよ池雪の活動が、各学年の児童の生活や学習の場面で進んでいる。運営上の課題について共有を図り、解決に向けた積極的な連携を図っている。	
		家庭学習を推奨し、毎日適切な課題を提示する。また、学習の進捗を確認する。また、学習の進捗を確認する。また、学習の進捗を確認する。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	3	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	○タブレットの活用が進んでいるが、ネット環境の影響のため、ペーパーでの課題提示が求められている。バランスよく対応している。	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。